令和 4年度 学校評価書 (実施段階)

学 校 番 号

福岡県立早良高等学校

自己評価							=	校関係者評価	
学校運営計画(4月)							評価(総合)	自己評価は	
	学校運営方針						(110- 117	(110 117	- A : 適切である
	昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標			具体的目標				
学校満足度調査では、すべての項目(学習、進路指導、 学校行事、部活動、クラスの雰囲気)において、満足度が		(1)人権教育と心の教育を推進し、いじめ、差別、暴力を絶対に許さない安心安全な学校づくりに 努める。			・学校満足度調査を指標とし、教育活動の検証を行い改			B : 概ね適切である	
上昇した。特に、「進路指導」の満足度が全体的に高かっ		(2)ユニバーサルデザイン、アクティブラーニング、ICTの活用等による授業改善、観点別評価の				善充実を図る。			C : やや適切である
た。これは、進路がイダンスや二者面談など教員が生徒に寄り添い、生徒と一緒に進路について考える機会を増やした						・ICTを一層活用した授業改善 善を推進し、授業アンケート			D : 不適切である
ことが調査結果にあらわれていると考えられる。		(4)「早良リンクス」の充実に注力し、定期的にその成果を検証する (5)振り返りの場を多く設定し、具体性に富むポートフォリオを積み	ス	の評価を用いて検証する。 ・オイスカ西日本研修セン					
学習面では、授業改善を学校全体で進めた結果、アン ケートで満足傾向にある生徒が8割を超え高い結果となっ		(6)部活動、生徒会活動、学校行事、地域行事等への積極的な参				ターを含めたボランティア活	Α	Α	
た。特に、学校設定教科「早良リンクス」は教材や内容の見 直しなどにより満足度の伸びが顕著であった。		を樍み重ねることで、課題解決能力を高める。 (7)学習はもとより、様々な教育活動において、実現可能な目標を	明示し、遺	産成感の積	み重ねを	動を充実させ地域活動を活 性化させる。			
オイスカ		とおして、自己肯定感を高める。 (8)SC等の外部専門家を活用し、個々の生徒の指導と支援の充実							
安心安全	≧な学校づくりを土台とし、学習のみならず様々な	(9)進路実現100%を目標に、生徒の個別指導を充実させる。							
	走個々の主体的な取組みや挑戦を引き出す場を 、本校が掲げる「生徒たちが幸せな社会人として	(10)成年年齢の引き下げに伴い、政治参加の重要性や契約、消費 充実させる。	責者保護 <i>0</i>	り仕組み等	の教育を				
生きていける力をつける」ための取組をより一層充実させ		(11)競技力向上、スポーツ・地域貢献活動実習等の充実により、スポーツコミュニケーションコー							
たい。		スの魅力を高める。 (12)特進プロジェクトを中心に、大学等への進学を充実させる。							
評価項目		具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
		ChromebookやGoogleアプリ(Classroom等によるオンライン学習 やアンケート、Jamboardによるペアワークやグループワーク、小	Α	Α	 - -	・授業アンケートの結果を分析し			・学力向上に目標設定をし、積極的に推進されている。
		テスト等)の活用による更なる授業改善を推進する。				い先生方のサポートを図る。また、授業改善研修会を充実したものとするため、先生方が必要			・ICTを活用した授業を見せていた
	生徒との教育活動の時間を増やすための業務 の見直しやICT化の推進	ルの推進 よる未務(成績処理、行事の及有朱約や建裕、アンケート寺)の B	В	ВВВ		としていることを把握して研修会 授業アンケートでの満足度の向			だき、生徒が真剣に取り組んでいると感じた。
教務部	別学化で区	効率化を図る。 早良フェスタについては、大好評の授業体験に部活動体験やス			Α	・校務支援システムの運用が難で、業者とも連携しながら先生	鯱しているの	Α	・これからも、生徒からのアンケートを参考に、生徒達の満足度や成績
	令和5年度志願者数の増加(志願倍率1.00倍)	ポコミ体験などを追加することで更なる充実を図り、参加者の入	A A			を図る。			の向上に取り組んで欲しい。
		試志願率60%以上を目指す。また、広報戦略室を中心に、パン フレットやチラシ、ホームページなど広報に関する戦略的な取組		Α		・早良フェスタの参加者数を増え 率が1.00を超えるように引き続			・早良高校の魅力や他校との違い を学校HPなどで情報発信を積極
		を実施することで目標達成を目指す。				誘活動を行う。			的に行って欲しい。
		登下校時に生徒昇降口や通学路で継続的に声をかけ、身だしなみ指導をするとともに、定期的にアンケート等を実施し、生徒自	В	В		・身だしなみ指導については、全 準で組織的に対応する。	全校統一した基		・登下校時の自転車の生徒は、身 だしなみや挨拶が出来ている。
/L /+ +p		身で自己点検できる仕組みを作る。				・当番制清掃に加え月一回程度、全員での清掃を実施し、校内美化に努める。			・数年前に比べると、全体的に落ち 着いてきたと感じる。生徒達の未来
	校内美化及びボランティア精神の育成	通常清掃割に加え、週1回特別教室等の清掃を徹底させる。ま びボランティア精神の育成 た、月1回程度、ボランティア美化活動を実施し、主体的に活動 する機会を設け、生徒のボランティア精神を育成する。 月1回の学校生活アンケート等を活用し、いじめ問題に早急に対	В	ВВ					の為、引き続きお願いしたい。
					В	・生徒会活動の一環として、ボランティア美化活動を実施する。			・先生方の生徒に寄り添い、細や かな指導とサポートに敬服してい
支援課		ウナストレナロ 以西にウドイの笠の玉沙につたぐ ナナ 土垣							る。 ・主体的・対話的で深い学びに繋
		を必要とする生徒に関して全職員で情報を共有し、特に学習面 で支援を必要とする生徒には、教務部と連携し、特別支援教育	Α	Α		・月1回実施のアンケートや校内巡視を実施す			がるよう、挨拶や身だしなみ指導等
		を接員に学習支援を依頼する。				ることで、いじめ問題の未然防. に努める。	止及び早期発見		を工夫しながら対応して欲しい。

г							
	より効果的なセミナーの企画・運営	資格取得セミナーにおいては、検定合格率の周知などを用いて、セミナー受講者を増加させる。また、進学セミナーにおいては、生徒が自分の進路により適した学習ができるよう、選択希望制の講座にする。	A	A	В	・資格取得セミナーはより受講者数を増やす取 組を行う必要がある。 ・進学セミナーは選択希望制にしたことで一定 の成果を上げたので、より進学希望者を増やす	
進路部	高専連携による公務員指導の拡充	大原学園を始めとした専門学校と連携し、公務員試験現役合格 生徒増を目指す。	В	В		ことでセミナー受講者数を増やすことを目指す。 ・公務員試験受験希望者を増やすため、低学年	
	地域連携活動を充実とより効果的な「早良みら いプログラム」の企画・運営	オイスカ西日本研修センターを始めとした地元施設・企業との連携を深め、生徒の課題発見能力の向上につながるプログラムを 実施する。	В	В		の段階で公務員について触れる機会を設ける。 ・生徒の課題発見能力向上につながるよりよい プログラムを構築するための教材を準備する。	
		善行表彰を3000件認めて良好な信頼関係を築く。	В			・1日あたりの欠席者数は5.4人(長欠生徒を除くと2.9 人)となった。1000件の善行表彰や各担任・保健室・ 支援課による声掛けによって良好な信頼関係を築け たので継続していきたい。 ・ボランティアについては予定よりも実施の数が少な く目標達成には至らなかった。次年度以降も機会減 少の可能性があるので、独自でボランティア活動を	
	1日あたりの欠席者数を4.0人以下 (昨年の1学年からの上昇)	保健室・支援課・教科担任と担任で情報を共有し、SCやSSW、保護者との連絡も密に行う。	Α	А			
1学年	生徒の道徳心と奉仕の精神を育むことによる、自主性と進路意識の育成	日時等の連絡と意義の理解に努め、ボランティアの参加を年間 延べ人数200人にする。	В	В	Α		
	日土住C進路息畝の月成 	特性に合わせた道徳心の涵養を各教科の授業で行う。	Α	Α		開拓していく必要がある。	
	学習到達度D3生徒の割合の減少とB3以上生	学び直しと模試の事前学習を積極的に実施し、内容の定着を図る。	Α			・11月の基礎力診断テストについて、D3の生徒60% と第1回から6ポイント減少することが出来たので、	
	徒の成績の維持・向上	模試毎に分析を行い。長期休業中のセミナーを活用し対策を図る。	Α	Α		次年度も継続して学力向上の取組を行う。	
	1日あたりの欠席者数4.0人以下、遅刻者数6.3	全担任が総合的な探求の時間やHRの時間、朝礼時に教室に入る。	Α	Α		・1日あたりの欠席者数は3.7人、遅刻者は7.3人 となり、1学年時の平均を下回ることはできな かったが、2学年での数値としては過去11年間	
	人以下	教育相談を活用し、情報共有体制を維持する。	Α	^	В А		
	進学・就職先の選択肢を増やすための取組の 充実	総合的な探求の時間等を利用し、上級学校や就職先の情報に触れる頻度を増やす。	Α	В		で最低のものにすることができた。次年度は、さらに欠席者数、遅刻者数を減らしていく。 ・進路指導に関しては、上級学校や就職先調べを充実させることができた一方で、資格取得については低調な結果となったので改善を図る。 ・B3以上の割合は3.1%(総合学力テスト11月)、D3の生徒の割合は58.6%(基礎力診断ンテスト	
2学年		ボランティアに参加する生徒や資格を取得する生徒を、昨年度より増加させる。	В				
	学習到達度B3以上の生徒の割合2.2%(総合学カテスト1月)以上、D3の生徒の割合63.2%(基	総合学カテストについては模試分析を行い、その結果をもとに日 ごろの教科担当者への報告・連絡・相談を徹底する。 基礎力診断テストについては、模試前の事前学習を学年で統一	В	А			
	礎力診断テスト1月)以下(昨年度からの上昇) 	して実施し、その方法も教科担当者間で内容を工夫する。 保護者との連携を密にし、遅刻数を前年度より15%減少させる。	A B			11月)となった。粘り強く指導を続けていく。 ・体育祭では学年の半数以上となる役員70名で	
	生徒一人一人の「社会人」としての自覚と「自立」意識の高揚	文化祭、体育祭等の学校行事でリーダーシップ(体育祭リーダー 立候補者60人目標)、フォロワーシップを発揮させ、愛校心を育 成する。	Α	А		の取組をみせ、最大の学校行事である体育祭 を成功に導いた。このことを40周年につなげて いきたい。	
3学年		授業改善を意識するため授業巡回を全職員で行う。	В	В		・進路実現については目標進路に向けて放課 後面接指導や学習にむかう姿勢が多くみられ、	
0,4	「わかる授業」の実践に向け授業改善の徹底	生徒の能力に応じた学習内容と個別指導をさらに充実させ、授 業満足度の向上に努める。	Α	Α	A	その結果、昨年度より3.8%進路内定率を上げることができた。この数値をさらにあげていきた	
	\\ \P\ =\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	早良リンクスの満足度「社会に役立つ」を70%を目標とする。	Α			い。	
	進路実現100%	生徒の進路希望・成績・出欠状況等のデータを分析し、全員の進路決定を目指す。	Α	A		・早良リンクスの満足度は90%を超えており、さらなる学習教材の精査が求められる。	
		中学校訪問を、5~6月、10~11月の2期に分けて実施する。	В	_		・中学校訪問や早良スポーツ教室など、中学校 への広報活動の工夫・改善の必要性がある。	
	本コースの志願倍率1.0倍以上	各強化指定部活動ごとに、中学生向けのスポーツ教室や訪問指導を実施する。	В	В			
スポーツ コミュニ ケーショ ンコース		ボルダリングやボウリング実習等を実施し、本コースの特色をより魅力的なものにする。	В	В	В	・生徒の実態に合わせて、実習を行うことができた。今後も生徒の進路に活用できるような実習	
	れる集団の育成	小学校での体力テスト補助やオイスカ西日本研修センターでの 地域貢献実習を通して、地域に愛される人材を育成する。	В	3		を確立していきたい。	
		1・2年生の早期から上級学校訪問や出前指導を実施する。	В			・オイスカ西日本研修センターでの実習に関しては、コロナ禍で実施できないものもあったが、 研修生との交流の中で、生徒のコミュニケーション能力が上がったと感じた。	
	外部機関との連携の強化と生徒の進路意識の 向上	オイスカ西日本研修センターとの協力を一層強化し、1学年6回、2学年6回の実習を通して、生徒のキャリアプランニング能力の向上に生かす。	Α	А			
				I	I		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 学校満足度調査や授業アンケートを指標とし、教育活動の検証を行い改善充実を図る。
- ·ICT機器や協働学習を取り入れた授業改善を推進し、生徒の学ぶ意欲と学力の向上を図る。 ·社会性の基礎となる、挨拶励行、規則遵守、掃除の徹底等を積極的に推進し、生徒の自己指導能力の育成を図る。
- ・地域との連携を強化し、ボランティア活動等の地域活動を活性化させる。

す。年。 1 9・け 5 域	В	極的に行って欲しい。 ・早い時期からの進路に対する取組は、生徒にとっても心強いものとなっている。 ・職業観、勤労観を育むための学習プログラムを取り入れて欲しい。・オイスカの研修生とも積極的に交流し、お互い学び合うことができている。 ・欠席数の改善は、是非引き続きお願いしたい。 ・早良高校の良いところに触れ、基本のによりにないます。				
6		本のしっかりした1年生を育成して 欲しい。				
さ、、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Α	・より成長しようとする、意欲的な2年生を育てて欲しい。 ・欠席数、遅刻者数の改善を今後 も引き続き取り組んで欲しい。				
で、こと	Α	・先生方の指導のおかげで、リーダーシップのある生徒が多いと感じる。これからも、地域に貢献できる人材を育成して欲しい。 ・上級生として、リーダーシップをとり、体育祭を成功させたことは素晴らしい。 ・「早良リンクス」は面白い取組。個人差があるのは当たり前だが、少しでも成果が上がるようお願いする。				
交き引、ヨ	В	・中学校やオイスカとの交流を深める等、外部と交わる地域・教育活動は必要だと思う。 ・オイスカとの実習に取り組み、非常に社会勉強になっている。 ・スポーツコミュニケーションコースの特色を生かした、優れたリーダーを育成して欲しい。				
	評価項目以外のものに関する意見					

・将来の進路に向けての取組を積

極的に行って欲しい。

・今後とも「生徒たちが、将来幸せな社会人として生 きて行ける力をつける」を目指した教育活動を展開 して欲しいと願う。